

令和5年度 全国学力・学習状況調査
神奈川県公立小・中学校調査結果の分析・活用資料について

1 調査結果（速報）の公表（令和5年7月31日）

本県の公立小・中学校の平均正答数・平均正答率は、全教科とも、全国公立学校の平均値と大きな差は見られなかった。

2 県教育委員会の分析、資料作成

- ・本調査結果を総合的に分析し、全県の傾向を踏まえ、「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」として整理した。
- ・さらに、各学校が「学びを充実・改善させる」ヒントとなる取組事例を収集した。
- ・これらを取りまとめ「令和5年度版『かながわの学びの充実・改善のために』」を作成した。

3 令和5年度版『かながわの学びの充実・改善のために』の公表

*結果の分析・活用資料（別添冊子）を、令和5年10月31日公表

令和5年度版「かながわの学びの充実・改善のために」 [概要]

令和5年度全国学力・学習状況調査 神奈川県公立小・中学校調査結果の分析・活用資料

「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」

各重点事項のページに「学びの充実・改善のヒント」を掲載

児童・生徒質問紙、学校質問紙の回答における数値は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」といった肯定的な回答をまとめて算出

①子どもたちの学びに対する意欲の向上

〔児童・生徒質問紙(※1)〕国語、算数・数学、英語の勉強は好きですか。

□小学校…国語 61.3% 算数 61.3% 英語 69.0%

□中学校…国語 62.9% 数学 58.0% 英語 56.0%

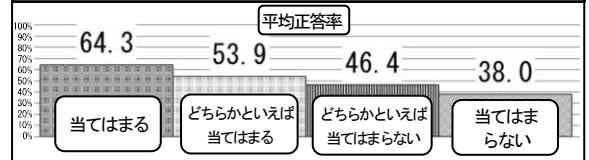
〔学校質問紙〕調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行いましたか。

□小学校…99.2% □中学校…97.4%

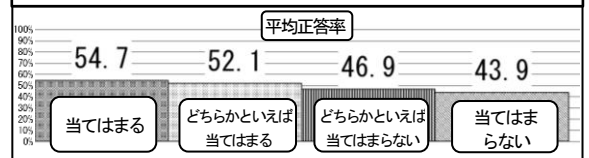
〔児童・生徒質問紙(※2)〕先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

□小学校…88.9% □中学校…86.8%

生徒質問 ※1 「数学の勉強は好きですか」と中学校 数学の問題の平均正答率とのクロス集計 (他校種、他教科も同様の結果)



生徒質問 ※2 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」と中学校 数学の問題の平均正答率とのクロス集計 (他校種、他教科も同様の結果)



➤クロス集計に着目すると、「各教科の勉強が好き」「先生が自分のよいところを認めてくれている」と回答している児童・生徒ほど、各教科の調査問題の平均正答率がそれぞれ高い傾向にあります。

➤授業の中で、学ぶ楽しさを伝えたり、児童・生徒のよい点や努力を認めたりするなど、引き続き一人ひとりの「学ぶ意欲」を高めていくことが重要です。

②自分の考えを文章等で表現する力の向上

〔教科調査問題〕※いずれも記述式問題の正答率 無解答率

小学校【国語1二 25.6% 8.3% 算数2(4) 23.3% 4.9%】

中学校【国語4三 51.2% 19.8% 数学7(2) 34.3% 23.1% 英語10 100.0% 19.3%】

他校種、他教科でも同様に、解答類型の反応率を見ることで、課題(つまずき)が把握できます。

※解答類型…各問題についての正答、予想される解答などの解答状況を分類し整理したもの。

【小学校国語1二】

「学校の米作りの問題点と解決方法」について、

60字から100字以内で書く設問。

(正答の条件)以下の条件を満たして書いている。

条件①学校の米作りの問題点について

a【川村さんの文章】のグラフから分かること

b【カード④】から分かること

条件②解決方法について【カード⑤】をもとにして書いている

		解答類型			反応率
正答	1	条件① a ○	条件① b ○	条件② ○	25.6
	2	条件① a ○	条件① b ○	条件② x	2.9
	3	条件① a ○	条件① b x	条件② ○	19.1
	4	条件① a x	条件① b ○	条件② ○	17.6
	5	条件① a ○	条件① b x	条件② x	7.8
	6	条件① a x	条件① b ○	条件② x	2.4
	7	条件① a x	条件① b x	条件② ○	7.7
	8	条件① a ○	条件① b ○	条件② ○ 字数制限 x	0
	9	上記以外の解答			8.5
	10	無解答			8.3

➤上記で取り上げた教科調査問題の正答率は、他の設問と比較して、低い傾向にあります。しかし、無解答率(4.9%~23.1%)に着目すると、児童・生徒の80~90%程度が、解答を書こうとしています。さらに、各設問の解答類型を分析すると、上記の設問では、解答類型3や4に課題のある児童が多いたることが分かります。

➤自分の考えを文章等で表現するには、書く材料を集めたり、考えを形成したり、構成を考えたりする必要があります。児童・生徒が、考えを表現する一連の過程のどこでつまずいているのかを把握し、授業を行うことが重要です。

③授業改善の推進（主体的・対話的で深い学びの視点、指導と評価の一体化、教科等横断的な学習）

- 〔学校質問紙〕調査対象学年の児童・生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。
- 小学校…85.5% □中学校…89.1%
- 〔児童・生徒質問紙〕前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
- 小学校…80.0% □中学校…80.4%

- 〔学校質問紙〕調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学習評価の方針を示した上で、児童・生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童・生徒の学習改善に生かすことを心がけましたか。
- 小学校…85.7% □中学校…96.6%
- 〔児童・生徒質問紙〕学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。
- 小学校…76.5% □中学校…69.7%

- 〔学校質問紙〕教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか。
- 小学校…92.1% □中学校…93.9%
- 〔学校質問紙〕児童・生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。
- 小学校…89.9% □中学校…90.8%
- 〔児童・生徒質問紙〕授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。
- 小学校…82.3% □中学校…70.3%

「社会経済的背景(SES)」「主体的・対話的で深い学び」「平均正答率」の関係

- 家庭の社会経済的背景(SES: Socio-Economic Status)※が低い児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が低い傾向が見られる。
- しかし、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童・生徒は、SESが低い状況にあっても、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。
- ※本資料では、文部科学省作成の資料を参考に、「家にある本の冊数」を家庭のSESの代替指標として用いている。

三重クロス集計

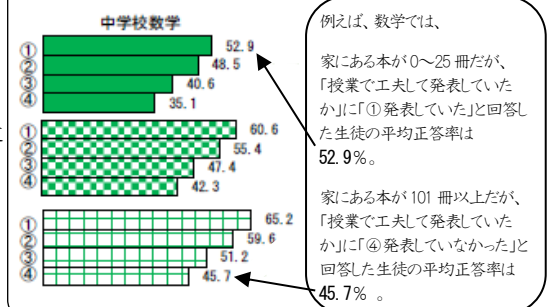
①家にある本の冊数 × ②授業で工夫して発表していたか × 【各教科の平均正答率】

①家にある本の冊数

■ 0~25冊 ■ 26~100冊 ■ 101冊以上

②授業で工夫して発表していたか

①発表していた ②どちらかといえば、発表していた
③どちらかといえば、発表してなかった ④発表してなかった

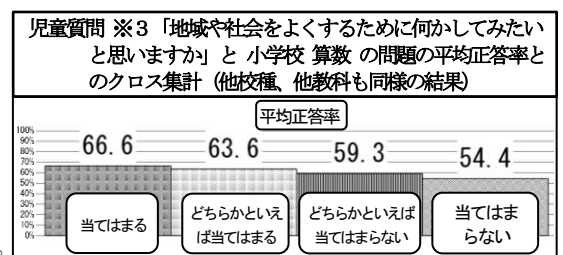


〔国立教育政策研究所 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果(概要)より〕
神奈川県教育委員会にて作成

- 各学校では、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善の取組が実施されています。また、日々の教育活動を見直しながら、学習評価を教員の指導改善等に生かしています。一方、学んだことをほかの学習につなげている児童・生徒の割合は、70%程度です。
- 国立教育政策研究所の分析によると、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童・生徒は、家庭の社会経済的背景(SES)が低い状況にあっても、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
- 各学校は、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善に取り組みながら、引き続き、日々の教育活動をより充実させることが重要です。

④地域と学校の連携・協働の推進

- 〔学校質問紙〕指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。
- 小学校…88.7% □中学校…77.5%
- 〔学校質問紙〕教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか。
- 小学校…84.7% □中学校…81.8%
- 〔児童・生徒質問紙(※3)〕地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。
- 小学校…76.5% □中学校…60.8%



- 各学校では、地域等の外部の資源を活用しながら指導計画を作成し、教育目標等を家庭や地域と共有する割合が高まっています。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という質問に対して肯定的に回答している児童・生徒ほど、各教科の調査問題の平均正答率が高い傾向にあります。
- 各学校は、引き続き、地域と教育目標等を共有し、共通の目標を持ちながら、児童・生徒が地域や社会に意識が向くような指導計画や教育課程を編成・実施していくことが重要です。

4 県教育委員会の今後の取組

- (1) 本県の分析を市町村教育委員会や学校、家庭・地域等と共有
- (2) 課題改善に向けて各市町村教委と協議
- (3) かながわ学びづくり推進地域研究委託事業に活用

※各市町村教育委員会における本調査結果の公表資料等を県教育委員会ホームページにリンク